

事例

	トラブルの概要	映像ファイル情報（一例）	有効な解決策
1	SSTG1モードで映像再生が途中で止まってしまう。同じ映像を新再生モードで再生すると、映像を開いた際にソフトが強制終了してしまう。 ※映像のプロパティの「フレーム率」が30フレーム/秒	【MediaInfo】 フレームレート：23.976fps 【映像のプロパティ】 フレーム率：30フレーム/秒	5
2	SSTG1モードで再生すると、最初から音が聞こえない。コマ送りで音が出ない。		1～4、9
3	音声が出途中で聞こえなくなる。他のプレイヤーソフトでは問題なく音が聞こえる。	映像の種類：WMV フレームレート：23.976fps	1～4
4	映像を再生すると、音声のみで映像が映らない。	映像の種類：MPEG1 【MediaInfo】 フレームレート：23.976fps ビットレートモード：VBR ビットレート：3500 Kbps	1～4
5	作業中に急に音が出なくなった。映像は動いたり止まったりを繰り返す。		1～4
6	クライアント側では正常に再生できるが、翻訳者側では映像がスムーズに再生できずカクつく。	映像の種類：MPEG1 フレームレート：29.97fps	1～4
7	コマ送りで急に一けた飛んだり、スポッティングの微調整で15から17に飛んだりする。	【映像のプロパティ】 フレーム率：23フレーム/秒	1～4
8	映像を再生すると急に何フレームも飛ばす。	映像の種類：MPEG1 フレームレート：24P	6
9	SSTG1モードと新再生モードで1～2フレーム映像に対して音声が遅る。	映像の種類：WMV	1 ※WMVファイルの場合は必ずSSTG1モードにして下さい。
10	SSTG1モードと新再生モードでフレームがずれる。 SSTG1/SSTG1 LiteとNetSSTG1/SSTG1 Proとでフレームがずれる。	フレームレート：23.976fps	10
11	SSTG1モードと新再生モードで、映像とG1のタイムコードが1フレームずれる。 No.11の対応を行っても1フレームずれる。	映像の種類：MPEG1 フレームレート： 24.00fps（24フレーム/秒） 29.97fps（29フレーム/秒）	11
12	「mp4」「mov」の拡張子なのに、再生できない。	映像の種類：mp4,mov	7
13	「.mpg」という拡張子なのに、スムーズに再生できない。	映像の種類：MPEG2	8
14	タイムコード基本設定を24Frにしたファイルの波形は、実際の音声より2～3フレーム前倒しに表示されます。	【映像のプロパティ】 フレーム率：30フレーム/秒	5

※SSTG1 Lite、SSTG1には新再生モードはありません。（再生モードの切り替えはできません。）

※現在、該当のトラブルが確認されている映像ファイルの一例と有効な解決策を記載しておりますが、上記以外の映像ファイルでも同じ事象が発生する可能性もあります。特定の映像ファイルや解決策に限定される場合は赤文字で記載しております。

解決策

No	解決手段	手順	考えられる原因
1	映像再生モードを変更してください。 ※SSTG1 Lite、SSTG1には新再生モードがないため、変更できません。	ユーザー設定 - 詳細タブ - 映像再生機構の「MPEG-1とWMVの映像ファイルにはDirectShowを使う」のチェックを変更してください。 チェックなし ⇒新再生モード チェックあり ⇒SSTG1モード ※WMVファイルの場合は必ずSSTG1モードにして下さい。 ※MPEG1ファイルの場合は両方お使いいただけます。スムーズに再生できる方をお選びください。	再生モードがその映像に適していないと思われます。
2	パソコンを再起動してください。	—	メモリやCPUの使用率が上がり、動作が鈍くなっている可能性があります。
3	ソフトを再インストールしてください。	●Lite インストールCDから再インストールしてください。 ●Net、Lite2、Pro インストーラはユーザーページよりダウンロードしてください。 インストーラの案内は、製品発送メールにて記載しております。	他のソフトやOSのアップデートによって、SSTG1シリーズのソフトウェア構成に影響が出てしまったものと思われます。
4	映像を再エンコードしていただくよう、映像の支給元にご依頼ください。	再エンコードを依頼する際は、FAQ操作編映像系1に掲載されている「SSTG1シリーズで再生を推奨している映像ファイルコーデック一例」をご参照ください。	エンコードの際の設定の問題かと考えられます。
5	30フレーム/秒の映像ファイルは動作保証外のため、この映像では作業を行うことができません。映像を再エンコードしていただくよう、映像の支給元にご依頼ください。		WindowsOS（映像のプロパティ）で30フレームに設定されている映像は、SSTG1では動作保障外です。
6	24フレーム/秒のMPEG1ファイルは規格外のため、SSTG1シリーズで再生すると急に何フレームも飛びます。映像を再エンコードしていただくよう、映像の支給元にご依頼ください。		
7	mp4のビデオコーデックが「Mpeg4」コーデックになっている場合は、「H.264」のビデオコーデックでエンコードし直していただくよう、映像の支給元にご依頼ください。		弊社のサポートしているmp4/movファイルの映像コーデックは「H.264」のみとなります。（音声コーデックは「AAC」となります） 他の映像コーデックでは同じmp4/movの拡張子でも再生することができません。
8	映像ファイルがMpeg2の場合はSSTG1シリーズで正しく再生できません。Mpeg1にエンコードし直していただくよう、映像の支給元にご依頼ください。		「.mpg」という拡張子のファイルには2種類の映像ファイルがあります。 1つはMpeg1で、もう一つはmpeg2です。 Mpeg2は、SSTG1シリーズではサポートしていないので、再生することができません。
9	新再生モードでお使いの場合は「FAQ1-19：新再生機構で1フレーム再生をすると音が出ません。」を参照してください。（右記URL）	http://canvass.co.jp/usersupport/sst_g1/faq_01h1-19.html	
10	23.976fpsの映像ファイルを使った作業の場合以下のいずれかの対応を行って下さい。 A 映像再生モードを下記のように変更する。 sdbファイルのフレームタイプが24Pの場合 ⇒新再生モード sdbファイルのフレームタイプが24Frの場合 ⇒SSTG1モード B sdbファイルのフレームタイプを下記のように変換する。 新再生モードの場合 ⇒24P SSTG1モードの場合 ⇒24Fr	●再生モードを変更 ユーザー設定 - 詳細タブ - 映像再生機構の「MPEG-1とWMVの映像ファイルにはDirectShowを使う」（=SSTG1モード）のチェックをつけ、プロジェクトを開き直してください。 ●フレームタイプ変換（新再生モードの場合） [設定] - [映像とタイムコードの同期] - [フレームタイプ変換]で「24P」または「24Fr」に設定してください。	23.976fpsの映像ファイルを使用する場合、新再生モードとSSTG1モード（SSTG1 Lite/SSTG1を含みます）とで正しいフレームタイプが異なります。 新再生モードの場合はフレームタイプを「24P」に、SSTG1モードの場合は「24Fr」に設定して下さい。 再生モードを変更する場合や、再生モードの異なるユーザー様間でsdbファイルを取り取りされる場合はフレームタイプ変換が必要となります。 制作会社様から翻訳者様に下地となるsdbを渡す場合や、翻訳者様からクライアント様へ納品する際は、上記の点にご注意のうえ、適宜フレームタイプ変換を行って下さい。
11	映像の先頭部分から数秒以上進めた箇所までタイムコードを合わせて直してください。	①[映像とタイムコードの同期] - [設定情報のクリア]で一旦タイムコードをリセットし、映像を開き直します。 ②映像が開いたら、映像の先頭から数秒程度進んだ箇所にカーソルを合わせ、[映像とタイムコードの同期] - [基本設定]にてタイムコードを設定し直してください。	映像ファイルの先頭部分のファイル構造が壊れてしまっている場合、再生モードによってフレームの読み込みが異なってしまうことがあります。そのようなファイルの場合、映像再生モードを切り替える際は都度タイムコードをリセットした上で、映像の先頭から数秒以上進めた部分でタイムコードの基本設定をし直してください。